

国際関係学部 国際関係学科 専門教育分野 TLO: Target and Learning Outcomes

授業科目区分	授業科目名	科目コード ナンバー	ナンバ リング	科目種別 講義 演習 実習 PBL など	単位	主要 科目	1. 科目の目的	2. 科目の到達目標	3. ディプロマポリシー								
							授業科目で何を目的に学修し、どのような内容の理解を狙いとするか。	授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指し、何を到達目標とするか。	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5				
									多角的な視野からの幅広い知識と教養を身につけている	国際関係分野の専門知識とその応用に必要なコミュニケーション力をつけている	国際社会の多様な価値観や文化を理解し、自立かつ協働して諸問題に取り組むことができる	国際社会における問題の理解と解決に必要な情報やデータを収集・分析し、論理的で多角的かつ批判的な思考をもとづいて問題の解決に取り組むことができる	市民として社会に対して関心をもち、グローバルな視点から国際関係の幅広い知見や経験を活かして社会に貢献することができる				
①戦争と平和	必修	国際関係学入門	M-IRE101	100	講義	2	○	国際関係学の全体像を提示し、2年次以降の専門科目履修に際しての学修計画の指針を提供する。	諸国際問題について、基礎的な理解ができ、全体像を把握できるようになる。	◎							
	卒業演習・研究	基礎演習	M-SEM201	200	演習	2	○	国際問題に対する多様なアプローチを知ることで、国際関係という学びの分野の全体像を把握させる。	国際問題について基礎的な理解をする。次年度以降の専門学修を計画立案する指針を作る。	○	○	◎					
		専門演習	M-SEM301	300	演習	2	○	学部内の専門分野から選択し、その研究に必要な基礎知識と実践方法を少人数クラスで徹底して学ぶ。	専門研究の必修スキルである読解・調査・発表・討論等の能力を身につけ、さらなる学修の準備をする。				◎		○		
		卒業研究	M-SEM401	400	PBL	4	○	基礎演習での学修を踏まえ、さらに各専門分野についての知見と実践を深める。	高度な専門性を有する分野について、研究発表や論文執筆などの実践的な能力を身につける。	○			◎				
			戦争と平和	M-POL209	200	講義	4	○	古代から現代にいたる戦争の多様な側面を体系的に理解し、平和を実現する方策について考える。まず国家の形成や技術革新が戦争の変容とどのように関わってきたのかを学んだ後、権力や制度によって平和がどのように模索されてきたのかを考察する。	戦争と平和に関する基礎的な知識を習得し、平和を実現するために市民一人一人がどうあるべきかを主体的に考える習慣を身につける。	◎			○			
			日本の防衛	M-POL216	200	講義	4	○	本講義は戦後防衛政策の歴史的な展開を踏まえつつ、防衛政策を取り巻く国内政治環境、自衛隊の組織と役割、日米防衛関係、そして日本を取り巻く安全保障環境に着目して講述し、履修生の日本の防衛政策への体系的、多角的な理解を深めることを目的とする。	日本国憲法下で制定された多数の防衛関係法規を踏まえつつ、国連憲章に規定された国家固有の権利である自衛権の概念とその行使について理解し、国際社会の一員として日本の位置づけを、受講生自身の意見として主張できるようにする。				◎		○	
			国際政治学	M-POL201	200	講義	4	○	紛争と協調の交錯する世界について、国内の政治過程との比較、大國間の権力政治の展開、グローバル化による変容、に焦点をあてながら説明し、国際政治をみる眼を養う。	(1) 国際政治の多様な考え方を理解し、それらを組み合わせた分析をできるようにする。(2) 各国・地域の諸問題を国際関係のなかで捉え、両者の相互作用を説明できるようにする。		◎		○			
			国際経済学	M-ECN210	200	講義	4	○	現代の複雑な国際経済の構造について理解し、国際経済に関する重要記事を読みこなすことができるようになるための学修を行う。	国際貿易論、国際金融論の基本的な内容について理解し、さまざまな国際経済問題について貿易、国際金融の両面から、理論的ツールを用いて考察することができる。				◎			○
			国際法	M-LAW201	200	講義	4	○	法の定立、解釈適用、執行に関して、国際社会と国内社会の違いを把握することにより、国際法の性質(形式、効力)を理解し、さらに国際法がどの分野においてどのように適用されているかを理解することを目的とする。	国際法の本質を理解することにより、国際法を通じて国際社会がどのように秩序づけられているのか(秩序、効力)を理解し、さらに国際法がどの分野においてどのように適用されているかを理解することを目的とする。				◎			
			現代外交論	M-POL207	200	講義	4	○	国家の対外政策ならびに国家間の外交交渉について、外交の制度史、政策の決定過程、交渉と国力との関係、に焦点をあてながら説明し、国際政治をみる眼を養う。	(1) 外交の基本的な考え方を理解し、現実の政策を批判的に分析をできるようにする。(2) 各国・地域の諸問題を国際関係のなかで捉え、両者の相互作用を説明できるようにする。		◎		○			
			政治思想	M-POL211	200	講義	4	○	政治学における基礎概念の思想的背景を提示することで、3年次以降の専門科目の履修に際して、諸論点をより根源的に理解するための思考力を提供する。	現代世界における諸々の政治問題に関して、先入見を排した独自の思考ができるようになり、自身の見解を精確に言語化することができるようになる。	◎			○			○
			国際政治史	M-POL212	200	講義	4	○	17世紀にヨーロッパで生まれた国際体系が全世界に拡大し、現代国際社会の基本構造となっていく過程について学修することを目的とし、そうした過程の中で発生したさまざまな歴史的出来事についてその思想的背景や影響、国際社会の構造変化について理解することを狙いとしている。	過去の歴史的出来事についてその背景や影響を学び現代国際社会との関連性について理解できるようにする。国際社会の構造変化を歴史的流れの中で理解できる。現代社会の思想的背景となっている宗教やナショナリズム、自由主義、民主主義、資本主義や社会主義といったイデオロギーや思想について理解できる。				○			◎
			民主化の比較政治	M-POL213	200	講義	4	○	諸外国の政治体制や政治行動を分析するための基本的概念や理論的枠組みを検討した上で、民主化という体制変遷の法則性や一般的原因を学ぶこと	1)比較や類型化という分析手法の習得 2)民主化やクーデターのような政治変動を客観的に認識し評価する能力の涵養 3)東アジア諸国の政治の実態及び各国の抱える課題と解決方法の理解	◎			○			
			比較文化論	M-POL214	200	講義	4	○	世界的な観点からみた日本という視点から、日本の特徴的といえる事象に重点を置いて、日本の社会や文化についてアジア諸国との比較検討を通じて理解を深める。	日本とアジア諸国との違いを比較を通じて理解できるようにすることとし、1) 他のアジア諸国と違う日本の独自性を見出すことができる。2) 日本の社会の特徴をよりよく説明することができる。3) 日本の特徴を生かした未来への展望を築くことができるようになる。	◎			○			○
		ナショナリズム論	M-POL304	300	講義	4	○	ナショナリズムについての理論的アプローチに触れ、ナショナリズムの持つ役割について、歴史的、理論的、事例別に検討する。	近現代においてナショナリズムが果たした役割を理解できるようにする。あわせて、自助努力を基本とした自身の頑張りでの市民になれるよう、健全なナショナリズム理解をもてるようになる。	◎		○					
		軍縮安全保障論	M-POL301	300	講義	4	○	日本への原爆投下を起点に核兵器の拡散および軍縮交渉の歴史的経緯を辿りながら、核問題の現状を踏まえつつ核のない世界に向けた軍縮と不拡散の方策と課題を探る。	軍縮・不拡散問題の背景過程を理解した上で、NPT、CTBT等の軍縮・不拡散の枠組みの現状と課題点を理解し、併せて日本の役割について自己の見解をもてるようになることを目標とする。	◎							
		国際金融論	M-ECN316	300	講義	4	○	グローバル化の中の金融現象に関わる理論および現実を理解し、国際関係学の学修を拡張して経済学的視点からサポートする。	(1)グローバルな金融現象の理解する。(2)為替レートの決定を中心とした国際金融の基礎を学ぶ。(3)国際財務活動の内容と金融派生商品の基礎的理論を理解する。				◎				
		比較憲法論	M-LAW309	300	講義	4	○	日本、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツの憲法を比較しながら、それぞれの類似点・相違点について、その理由とともに理解を深め、憲法を「自分ごと」として考える。	近代統治制度の特徴である「権力の制限」や「民主主義」の意義について理解できるようにする。類似の制度や現象を比較分析する比較研究の作法を習得できる。				◎			○	

授業科目区分	授業科目名	科目コード ナンバー	ナンバ リング	科目種別 講義 演習 実習 PBL など	単位	主要 科目	1. 科目の目的 授業科目で何を目的に学修し、どのような内容の理解を狙いとするか。	2. 科目の到達目標 授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指し、何を到達目標とするか。	3. ディプロマポリシー						
									DP1	DP2	DP3	DP4	DP5		
									多角的な視野からの幅広い知識と教養を身につけている	国際関係分野の専門知識とその応用に必要なコミュニケーション力を身につけている	国際社会の多様な価値観や文化を理解し、自立かつ協働して諸問題に取り組むことができる	国際社会における問題の解決に必要な情報やデータを収集・分析し、論理的で多角的かつ批判的な思考をもつて問題の解決に取り組むことができる	市民として社会に対して関心を持ち、グローバルな視点から国際関係の幅広い知見や経験を活かして社会に貢献することができる		
② 国際協力 国際関係学科専門分野	国際ボランティア論	M-IRE205	200	講義	4	○	発展途上国で現在起きている貧困・環境汚染・格差拡大といった社会問題を理解し、公平で持続可能な社会を作るために、国際機関現地政府、コミュニティ等各アクターと連携しながら、市民社会として果たせる役割について考える。	授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指し、何を到達目標とするか。							
	国際援助技術論	M-IRE201	200	講義	4	○	国際社会で実施されている、様々な援助の形態やプレイヤーについて、学ぶ。あわせて、世界と援助が直面する課題についても、学ぶことを目的としている。	授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指し、何を到達目標とするか。	○						◎
	国際理解論	M-IRE206	200	講義	4	○	国際社会の問題を知り、異なる価値観をもつ人々と共生し平和な社会を構築するための国際理解のあり方、SDGsの「多様性の豊かさ」を基礎に身近なことから理解する。	授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指し、何を到達目標とするか。			○	◎			○
	国際組織論	M-IRE212	200	講義	4	○	伝統的な国際組織がいかに機能し、あるいは機能出来なかったか、新たに世界はどう対応してきたか、日本が具体的にいかに関わっていったかなどを検証する。	授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指し、何を到達目標とするか。	○						◎
	国際環境論	M-IRE215	200	講義	4		自然科学から社会・人文科学までの広い視点から、そして数々の事例によって、現代社会の環境問題とそれに対する対策の現状と課題を理解し、問題解決のための方策を考える。	授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指し、何を到達目標とするか。	○		◎				○
	国際NGO論	M-IRE213	200	講義	4	○	国際社会の諸問題の解決のために、NGOが各セクターと協働する中でどのような役割を果たすのかを理解し、実際の活動に必要な知識とスキルを修得する場を提供すること。	授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指し、何を到達目標とするか。				○			◎
	ジェンダー論	M-SOC207	200	講義	4		ジェンダー概念についての理解を基本として、主として1975年同参画の国連と日本政府の男女平等政策、男女共同参画社会の形成を中心に概観し、ジェンダーをめぐる諸課題、特に現代日本の少子化対策に関連して「性と生殖に関する健康と権利」について考察する。さらにフェミニズム(女性解放)や、セクシュアル・マイノリティの主張、運動、性の多様性について理解を深める。	授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指し、何を到達目標とするか。			◎		○		○
	国際開発論	M-IRE202	200	講義	4	○	開発のエージェントである多国籍企業の活動と国際経済の成長の牽引役となる新興諸国の立場を踏まえ、長・短期的視点から学際的視点を備えた国際開発論に対する理解を深める。	授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指し、何を到達目標とするか。	◎			○			○
	国際統合論	M-IRE309	300	講義	4	○	統合理論と統合の現実を対比しながら望ましい未来を展望するとともに、現代国際政治経済を理解する上での理論的・応用的視点を養う。	授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指し、何を到達目標とするか。	○			◎			○
	国際ジャーナリズム論	M-IRE325	300	講義	4		インターネット時代に「メディア」の果たすべき役割は何か。公正な国際報道はいかに作られるか。民主主義の国際社会における「ジャーナリズム」の存在意義とありかたを考察し、的確に分析する。	授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指し、何を到達目標とするか。	○	○					◎
	国際人権論	M-IRE307	300	講義	4	○	人権概念の変遷と課題についての理解と、国際的な人権保障の枠組みについての理解ならびに日本国の人権保障に関する国際的な責任について理解する。	授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指し、何を到達目標とするか。				○	◎		○
	国際資源論	M-IRE306	300	講義	4		日本および世界のエネルギーと環境、それに食料・農業に關連した資源全般の問題につき、広く、そしてできるだけ深く勉強し、日本の政策の注目点、世界の主要国の動向を考察する。	授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指し、何を到達目標とするか。				○		◎	
	国際経営論	M-MNG310	300	講義	4		多国籍企業を母体に展開される国際経営を、日本企業を中心に理論的、実践的に理解し、説明できる能力を養うことで、成熟化した国際関係を企業戦略を通してより深く理解できるようにする。	授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指し、何を到達目標とするか。				○		◎	○
	多国籍企業論	M-MNG315	300	講義	4		多文化世界を背景に、複数の企業群の織り成す価値の連鎖のネットワークとしての様相を持った現代の多国籍企業に対する理解を深め、21世紀の国際関係の課題に対し、特に日系多国籍企業の備える特性とその在り方を通して考察できるようにする。	授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指し、何を到達目標とするか。	○		◎				
	日本政治史	M-POL202	200	講義	4	○	幕末から冷戦後の今日に至る日本政治の流れを国際環境の姿と関連付けながら概観する。前半は幕末から戦前まで、後半は占領期から現在までの日本の内政および外交を歴史的、政治的に考察する。	授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指し、何を到達目標とするか。	◎				○		○
	日本外交論	M-POL215	200	講義	4		戦前から戦後、そして今日に至るまでの日本外交を、国際環境、国内要因、政策決定者個人々のレベルから概観する。	授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指し、何を到達目標とするか。			◎				
日本社会文化論	M-POL210	200	講義	4	○	日本文化を特徴付ける、「幽玄」「わびさび」「ものあわれ」などのさまざまな価値観や美意識を古代から現代にかけて概観し、日本社会の歴史的特質について一貫した理解を得る。	授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指し、何を到達目標とするか。	◎			○			○	

授業科目区分	授業科目名	科目コード ナンバー	ナンバ リング	講義 演習 実習 PBL など	単位	主要 科目	1. 科目の目的	2. 科目の到達目標	3. ディプロマポリシー						
							授業科目で何を目的に学習し、どのような内容の理解を狙いとするか。	授業での教育・学習を通じて学生がどのような学習成果の達成を目指し、何を到達目標とするか。	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5		
									多角的な視野からの幅広い知識と教養を身につけている	国際関係分野の専門知識とその応用に必要なコミュニケーション力を身につけている	国際社会の多様な価値観や文化を理解し、自立かつ協働して諸問題に取り組むことができる	国際社会における問題の理解と解決に必要な情報やデータを収集・分析し、論理的で多角的かつ批判的な思考をもとづいて問題の解決に取り組むことができる	国際社会における問題の理解と解決に必要な情報やデータを収集・分析し、論理的で多角的かつ批判的な思考をもとづいて問題の解決に取り組むことができる	市民として社会に対して関心を持ち、グローバルな視点から国際関係の幅広い知見や経験を活かして社会に貢献することができる	
③ 地域研究	日本の安全保障	M-POL307	300	講義	4		国際秩序の変容を念頭に敗戦から現在に至る戦後日本の安全保障政策の歴史的展開を辿りながら今日の日本の安全保障問題を考えることを目的とする。	日本の安全保障について歴史、政策、理論から学ぶことよって、日本の安全保障のあり方について自己の見解をもてるようになることを目標とする。	◎			○	○		
	日本経済論	M-ECN326	300	講義	4		景気の見方や経済指標の見方について解説するとともに、日本経済が抱えている問題を解説することにより、日本経済の現状を分析するための基礎的な知識を習得し、それに基づいて日本経済が直面している問題点を理解し、そのための処方箋を考えることを目的とする。	日本経済の現状を理解するために必要な主要経済指標、および日本経済の分析手法に関する知識を理解すること、それをもとに日本経済が直面している問題点について学び、それらを自らの言葉で説明できるようにすること、日本経済を活性化するための政策を立案する能力を身につけることを目標とする。			◎	○	○		
	アメリカ社会文化論	M-ARS204	200	講義	4	○	アメリカの「社会と文化」を、主に大衆文化を中心に考えて、アメリカのエスタブリッシュメントの中心価値となっている「主流文化」と、若者や女性、マイノリティが担い手の「対抗文化」という二項の「綱引き」の図式を念頭に考察する。	アメリカ文化は「主流文化」と「対抗文化」がせめぎ合い、綱引きを繰り返しているという認識のもと、これら二項を理解し、アメリカの歴史・社会・文化についての基本を踏まえて、アメリカ文化を「消費する」ことについても理解する。	○		○			◎	
	ヨーロッパ社会文化論	M-ARS211	200	講義	4		現代ヨーロッパの諸事情について、その歴史的背景に遡って考察し、知識・認識を深める。	現代ヨーロッパの諸事情について、その歴史的背景に遡って考察し、知識・認識を深める。	○		○				◎
	ロシア社会文化論	M-ARS212	200	講義	4		さらなる相互理解が必要なロシアの歴史と文化を多面的に学び、その根底に流れるロシア的な考え方や世界観を理解すること。	ロシアの社会と文化の独自性と多様性を学び、今のロシアの姿の背後にある豊かな歴史の歩みを知ること、また、ロシアを通して自分たちを取り巻く諸問題を再考する力を養うこと。	○		○				◎
	東アジア社会文化論	M-ARS210	200	講義	4		漢字と箸の伝統を共有する東アジアを中国語文化圏を中心に、「旅」するように社会の共通点や相違点を考察する。先入観や誤解を排し、真の国際人として社会に飛び立つ上で欠かせぬ比較文化論の土台を築く。	幅広い東アジア文化に「なるほど！」と頷く発見をしたり、ディスカッションや小論文の執筆をしたりして、履修生自らが思考力や分析力、問題発見力、方針決定力を向上させ、社会人としての能力を得る。	○		○				◎
	中東社会文化論	M-ARS215	200	講義	4		中東の社会や文化のもととなっているイスラム教を中心に、中東における風習、男女関係、イスラム法(シャリヤ)などについて理解を深める。	イスラム教を背景として、中東世界の事情を理解するとともに、それぞれの時代の特色について語ることができるようになる。	○		○				◎
	アメリカの政治と外交	M-ARS216	200	講義	4		アメリカの国内政治と外交政策のリンケージ現象について体系的に知識を提供する。	アメリカの政治と外交の諸特徴を理解するとともに、アメリカと世界の関係についても把握できるようになる。	○	○					◎
	東ヨーロッパの政治と外交	M-ARS217	200	講義	4	○	近現代におけるヨーロッパの発展の足跡を広く地域的、内政的展開も織り交ぜながら、国際的視野を持って広く概観し、多国家を包括したヨーロッパの現状を深く理解する。	世界史のなかで、ヨーロッパが果たしてきた役割、および、今後の考えられる展開について理解し、イギリスのEU離脱後の動向について考えることが出来る。		◎	○			○	
	東南アジアの政治と外交	M-ARS218	200	講義	4	○	東南アジアの近現代史を、域外の国際政治からの影響、独立以後の国民国家建設、ASEANを中心とする地域協力に焦点あてながら説明し、地域に対する理解を深める。	(1)東南アジアの諸問題を国際関係のなかで捉え、両者の相互作用を説明できるようになる。(2)東南アジアで日本との関係についての知見を持ち、今後の課題を議論できるようになる。		◎	○	○			
	南アジアの政治と外交	M-ARS223	200	講義	4		インドを中心とする南アジア諸国の国内政治と外交政策を概観し、南アジアの地域的特徴を理解する。	(1)新興大国として、インドが南アジア地域及びインド太平洋地域の国際関係に与える影響、(2)インドと他の南アジア諸国との特異な関係性などについて、自分なりの見方や考え方を提示できるようになる。	○	◎	○				
	中東の政治と外交	M-ARS219	200	講義	4	○	現代の中東地域諸国の国内情勢、中東地域政治、および中東地域に關与する域外大国の政策について包括的に考察する。	複雑な現代中東地域政治の基本的構造を理解することでニュース等で報道される中東情勢について関心が持てるような知識を習得する。			○	◎			○
	中国の政治と外交	M-ARS309	300	講義	4	○	中国をめぐる国際関係の理論と事例研究を学習する。	中国の現代史と国際関係を学び中国の行動を理解することができる。			○	◎			○
	朝鮮半島の政治と外交	M-ARS318	300	講義	4	○	朝鮮半島の政治と外交を、とくに朝鮮半島の国際関係に焦点を当てて考察する。	21世紀に入ってから朝鮮半島の政治と外交について、それらを理解するうえで不可欠な基本的視座を獲得できる。	◎		○				○
	東アジア安全保障論	M-ARS312	300	講義	4		東アジアの安全保障を日本にとつての含意を常に意識しつつ、巨大化した中国と緊張関係が持続する朝鮮半島にとくに焦点を当てて考察する。	21世紀に入ってから東アジアの安全保障環境を理解するうえで不可欠な基本的視座を獲得できるとともに、広い視野のなかで問題を捉えると同時に、それについて深く分析検討する能力を養成する。	◎		○				○
④ ツーリズム(国際メディア学科②参照)															
⑤ 学科間共通専門分野	国際教育プログラムⅠ	M-ISP101	100	実習	2		インターンシップ、ボランティア、海外フィールドワーク、メディア活動などを課外授業として実践する。	様々な現場において学生が主体的に関与行動できるようなノウハウを身につけ、実践によって成果を得る。				○			◎
	国際教育プログラムⅡ	M-ISP102	100	実習	2		インターンシップ、ボランティア、海外フィールドワーク、メディア活動などを課外授業として実践する。	様々な現場において学生が主体的に関与行動できるようなノウハウを身につけ、実践によって成果を得る。				○			◎
	国際教育プログラムⅢ	M-ISP103	100	実習	2		インターンシップ、ボランティア、海外フィールドワーク、メディア活動などを課外授業として実践する。	様々な現場において学生が主体的に関与行動できるようなノウハウを身につけ、実践によって成果を得る。				○			◎
	国際関係学特殊講義A	M-IRE216	200	講義	2		流動的な国際関係の動きに応じて、現代的なテーマを設定して講義を行う。	現代的な国際関係の諸問題を客観的に分析し、国際関係のいまを精確に理解すること。			○		◎		○
	国際関係学特殊講義B	M-IRE217	200	講義	4		流動的な国際関係の動きに応じて、現代的なテーマを設定して講義を行う。	現代的な国際関係の諸問題を客観的に分析し、国際関係のいまを精確に理解すること。			○		◎		○